

ギャラリースペース「4649」オープンと、オープニング展「4649 group show」 のご案内



この度、アーティストの清水将吾、小林優平、高見澤優海は、2015年より杉並区にて運営していたアーティスト・ラン・スペースWorkstation(休止中)に代わるプロジェクトとして、「4649」(foursixfournine / ヨンロクヨンキュー)というギャラリー・スペースを豊島区巣鴨にオープンいたします。このスペースはアーティスト・ラン・スペース、XYZcollectiveとの共同スペースとなり、本展以降この場所でXYZ Collectiveと交互に展覧会を行っていきます。

4649では、Workstationと同様に運営アーティストの展覧会を企画することに加え、それぞれがアーティストとしての関心に基づいた国内外のアーティストによる展覧会も開催していく予定です。オープニング企画展として、4月29日(日)から5月27日(日)まで、松下和暉、濱田泰彰、下村努、高見澤優海の名のアーティストによる「4649 Group Show」を開催いたします。それぞれが考えている今日の芸術家の主体性のあり方についての考察がテーマとして緩やかに共有され、このキュレーションを踏まえて制作された新作による展覧会となります。

ぜひ、この機会にギャラリー・スペース「4649」の立ち上げを飾ります本展にご来場いただけますよう、よろしくお願いいたします。

+++

展覧会概要

4649 Group Show
4649 opening exhibition

アーティスト：松下和暉、濱田泰彰、下村努、高見澤優海

2018年4月29日(日)ー2018年5月27日(日) *月火水休み

時間：木曜日ー土曜日 13:00ー19:00 / 日曜日 13:00ー18:00

オープニングレセプション：2018年4月29日 14:00ー18:00

住所：東京都豊島区巣鴨2-13-4-B02

www.4-6-4-9.jp

参加アーティスト

濱田泰彰 / Yasuaki Hamada

1988年兵庫県出身、現在はウィーンにて滞在し制作を行なっています。
濱田泰彰の作品はあらゆる現実のオブジェクトがそれを認知する主体が不在の状況でどのように存在しているかを仮想的に、または明言されない何らかの理由を持った存在(たち)が現実のオブジェに対して様々な方法で接触した時に、その状況に残されたムードを既製品を用いて表現しているような彫刻作品を制作しています。

松下和暉 / Kazuki Matsushita

松下和暉は1992年東京都出身の詩人、ペインターです。例えば近作では自作のテキストやポエム、美術史的人名やそれにまつわる言葉のアナグラムから想起される物体や絵画を表現しています。一般的な絵画の成立条件からは少し離れているようにも思える画面は、自身が置き去りにされているような状況を恣意的に作り出すことで描かれています。それは言語の持つ物理的条件や身体性と、絵画との関係を探る試みなのだと思います。

下村努 / Tsutomu Shimomura

匿名のプロジェクトであり、本展のキュレーターの一人として参加、出展しています。

高見澤優海 / Yuu Takamizawa

1990年生まれの高見澤は、4649の共同ディレクターの一人であると同時に、下村努と共に本展をキュレーションしています。それは制作テーマの一つであるアーティストの主体性のあり方に関する考察を深めるための試みとしてのキュレーションでもあります。本展では新作に加え、下村努の指示によって下村と共作した絵画を展示いたします。



左：松下和暉 / “KOM” crossword / 2017

右：高見澤優海 / untitled / 2017

お問い合わせ先

4649（担当：小林）

東京都豊島区巢鴨2-13-4-B02 / Tel. +81-80-5459-4993 / e-mail. info@4-6-4-9.jp,

yuhei@4-6-4-9.jp

www.4-6-4-9.jp